「DVをもっと詳しく説明すると」

テレワークで、仕事と家庭の境がなくなった

家庭の中

家庭の中で行なわれるため、外部から被害が発見されにくく、潜在化します。

暴力の背景には、「男性は仕事」「女性は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識【ジェンダー】の考え方が影響しています。

加害者

特徴

・加害者の多くは男性です。

「女性に負けてはならない」「家族を養えて一人前」「男性は弱音を 吐いてはならない」など、過剰な責任感から暴力を振るう。

- ・夫婦間では「よくあること」だと思っている。
- ・「○○○べき」の考え方が強い。出来ないと「なんで、こんなことができないのか」と暴言を吐く。
- ・暴力を振るっているという認識が薄い。
- ・常に自分が正しいと思っている。・子育てを、妻の課題と考える。

恐怖を与えない、対等に尊重する態度が必要

加害者側にも、生き辛さがあるかもしれませんが・・・

もっと辛いのは、被害者や子どもです。

思い通りにならないからと言って、暴力・暴言をしてはいけません。

「怒り」のコントロールが必要

「怒り」は、加害者自身が選択した結果と言われます。

「怒り」を感じたら、その場を離れる、深呼吸するなど、 対策を考えてはどうでしょうか【アンガーマネジメント】

相手を「最も身近で大切な人」として、想う気持ちが必要です。

支配

身体的暴力 精神的暴力 性的暴力

経済的暴力

被害者

特徵

女性の約4人に1人、男性の約5人に1人 (令和5年内閣府調査)

・被害者の多くは女性です。

年々、男性の被害者が増加しています。(令和5年27.9% 警察庁統計)

- ・家庭内の問題を話す恥ずかしさや、加害者からの報復を恐れ、自分さ え我慢すればよいと考えてしまう。
- ・子どもの養育や経済的な問題から、被害から抜け出すことができず、 被害が常態化する。
- ・加害者が変わってくれることを、期待することもある。
- ・精神的に支配されて孤立を深める間に被害が深刻化し、危険な状況に 陥ることが少なくない。

子どもへの虐待が潜むケースも

- ・DVの背景には、<u>児童虐待が潜んでいる場合</u>があります。 子どものいる前で口論や暴力がある場合、子どもへの心理的虐待に当たります。
- ・心理的虐待を受けている子どもは、脳の萎縮や複雑性PTSD等の症状が現れること が確認されているため、早期に子どもの相談窓口へご相談ください。

周囲の方へ

被害者を孤立させないためには、周囲の方の「気づき」が必要です。

DV相談窓口を紹介していただくことで、被害者は支援に繋がることができます。

○岡崎市女性相談(エール)

23-6778

月~金 8時30分~17時

○岡崎市男性相談

080-2639-2111 第1·3水 17時~20時

◎子どもの相談窓口

岡崎市こども家庭センター 23-6745 月~金 8時30分~17時15分

まずは、加害者、被害者共に、DVの気づきが必要